

「特別支援教室」についての疑問にお答えします

Q 特別支援教室に入ると、通常の授業は受けられないのですか？

A 特別支援教室での授業は、週1回、1日1～2時間程度を基本として、在籍学級の授業を抜けて指導を受けます。抜けた時間の授業内容は家庭学習で補うことが前提ですが、学習内容はその都度知ることができるよう、担任の先生と相談してください。

Q 思うように成績が伸びないので、特別支援教室を利用したいのですが。

A まずは成績が伸びない原因を、担任など在校校の先生に相談しましょう。必要に応じて発達検査を受け、特別支援教室での指導が有効であるとわかれば、利用が始められます。特別支援教室は成績の向上を目的にした場ではありません。学習方法やコミュニケーションを学ぶ教室だということをご理解ください。

Q 成績のいい子は入れないのですか？

A 成績の良し悪しとは無関係です。学習の習熟度に問題がなくても、発達の特性によって学校生活や友達との関係で困り感を抱えている場合には、特別支援教室でコミュニケーション力や社会性を身につけることができます。

Q 発達障害と診断されていない子は入れないのですか？

A 特別支援教室は、知的な遅れのない発達障害の子どもたちのサポートを目的としています。必ずしも医療機関で診断を受ける必要はありませんが、申し込みにあたって発達検査を受けていただく必要があります。

Q 特別支援教室に通うことで、子どもがコンプレックスをもつのではないのでしょうか。

A 特別支援教室に通うことで、学習能力が向上したり、人間関係が円滑に進められるようになったという報告は数多くあります。巡回指導教員や在籍学級担任は、臨床発達心理士などの専門家の意見を踏まえて、特性を理解し指導していきますので、生徒本人の自尊感情を高めることにつながると考えています。

Q 友だちからかわれたり、いじめられたりするのでは？

A 各校に特別支援教室を設置する背景には、すべての生徒がお互いのちがいを認め合い、個性を尊重し、支え合えるようにという願いがあります。在籍学級の担任は、「一人一人が自分に合った学び方で学習することが大切だ」という指導をします。巡回指導教員は、在籍学級の生徒のようすも見守っています。心配なことがあれば、いつでも相談してください。

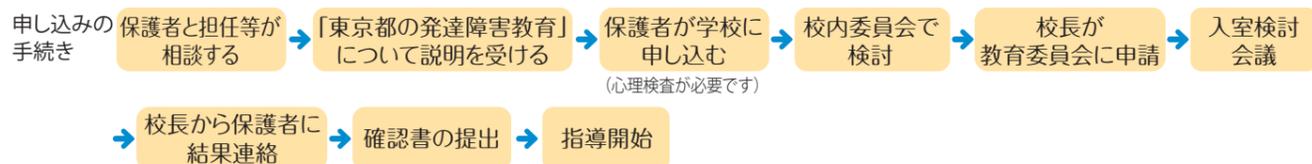
Q 高校入試に影響はありますか？

A 特別支援教室に在籍していたことによる高校入試への影響はありません。また、都立高校の入試では、中学校時代に継続的な支援を受けてきたことを条件に、入試について特別な配慮を受けることができる制度（要申請）があります。

Q 保護者は巡回指導教員の先生とお話できますか？

A 特別支援教育が効果を発揮するには、ご家庭との連携が必須です。定期的に個人面談や保護者会を設けていますが、気になることがあれば電話や手紙、直接来校するなどの方法で相談できます。在籍校にご連絡ください。

申し込み方法 まずは学級担任、特別支援教育コーディネーター、校長に相談してください。校内で検討した後、保護者とよく相談したうえで、教育委員会に申請することになります。申請に必要な用紙は担任から受け取ってください。



一人ひとり
みんなちがうんだ
だからどう学ぶかも
ちがっていいよね

杉並区立中学校における 特別支援教室

特別支援教室の設置エリア

中瀬中学校エリア

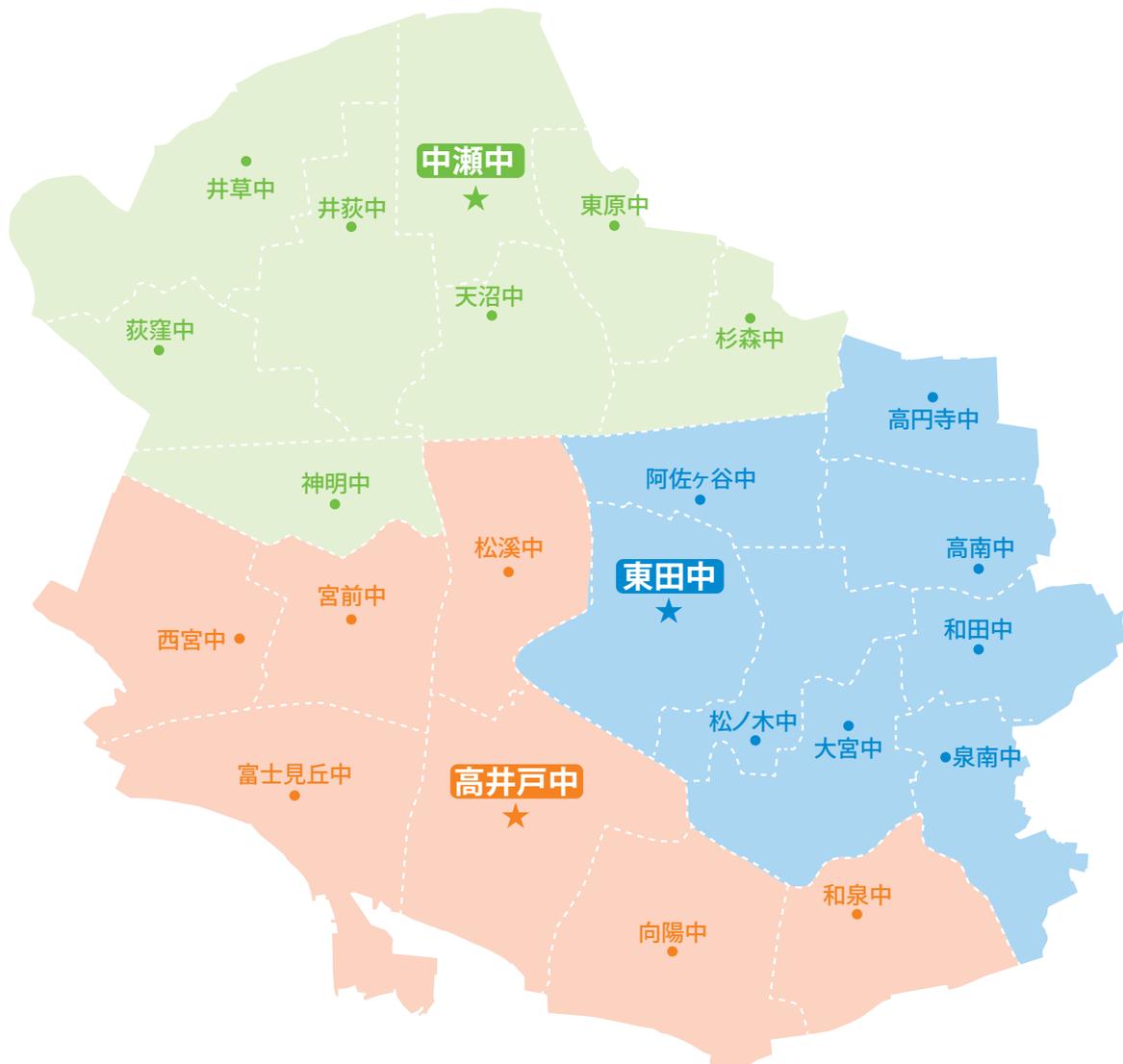
- ★中瀬中学校
- ・杉森中学校
- ・天沼中学校
- ・東原中学校
- ・井荻中学校
- ・井草中学校
- ・荻窪中学校
- ・神明中学校

東田中学校エリア

- ★東田中学校
- ・高円寺中学校
- ・高南中学校
- ・阿佐ヶ谷中学校
- ・松ノ木中学校
- ・大宮中学校
- ・泉南中学校
- ・和田中学校

高井戸中学校エリア

- ★高井戸中学校
- ・松溪中学校
- ・宮前中学校
- ・富士見丘中学校
- ・向陽中学校
- ・和泉中学校
- ・西宮中学校



特別支援教室で“自分らしさ”を力に

にがてなこと、こまっていることがあっても大丈夫

中学生になると学習内容も人間関係も複雑になり、特定の教科の不得意が目立つようになったり、友だちとのトラブルが続いたり、教室で孤立しがち、などの課題が気になり始める子もいるでしょう。知的な遅れがない場合、「本人の努力不足」「性格の問題」「常識がない」などとされがちですが、発達障害や認知特性の課題が背景にある可能性もあります。一人ひとりが自分の特性を理解し学校生活で能力を発揮できるようにする場所が、各学校の中にあります。それが「特別支援教室」です。

たとえば このようなことに困っている生徒のための教室です

気持ちの切り替えが難しい

- 場の空気を読み、状況判断をして行動することが苦手。
- 好きなことには集中しすぎて、それ以外のことがなおざりになる。
- 急な予定の変更が苦手で、パニックを起こすことがある。



コミュニケーションがうまくとれない

- 思ったことをそのまま口にしてしまったり、自分のことをうまく表現できなかったりして、友だちとの関係がぎくしゃくする。
- 興味や関心のあることを一方的に話すことがある。
- 人の気持ちを読むのが苦手で、周囲の反応を気にしない。
- 学校では友だちとの交流を求めず、孤立しているように見える。

運動や体の動きが器用にできない

- 水泳や器械体操等が苦手、球技でフォーメーションが理解できないなどから、取り組みを嫌がる。
- 楽器や実技教科の道具の取り扱いが苦手でうまくできない。
- 手先を使う細かな作業を不得意とする。



不注意、衝動性が目立つ

- 整理整頓が苦手で物をよくなくす。忘れ物が多い。
- 授業やテストで集中できない。うっかりミスが多い。
- 思いつきで発言したり行動したりして、失敗体験が多い。
- やりたいことが他にあると注意が逸れ、課題を最後までやり遂げられない。
- 音や光や皮膚感覚に過敏に反応して、集中できない。

学習に得意不得意があり、力を発揮しにくい

- 授業には参加できても、音読、読解、聞き取り、作文、書字、計算、推論するなど特定の分野が極端に苦手である。
- ノートをとることが難しく、授業に集中できない、課題を提出できないことがある。



読むのはにがて 話すのは得意だけれど

それぞれの 在籍する学校に設置されています

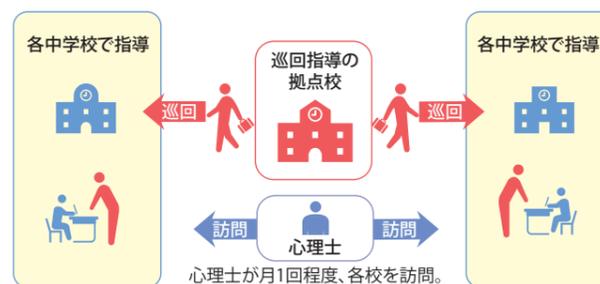
「巡回指導教員」が訪問します

「特別支援教室」は、各学校の中に設置されています。地域の拠点校から複数の「巡回指導教員」が訪問し、週1回、決められた時間に「特別支援教室」での授業をおこないます。

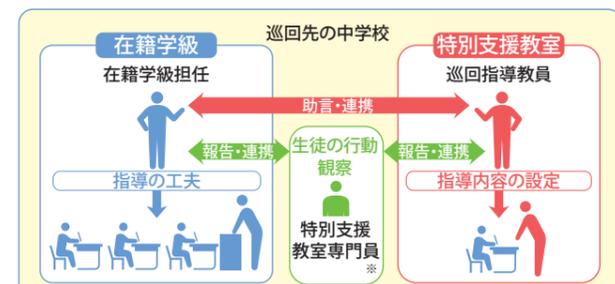
巡回指導教員は在籍学級の参観もします

巡回指導教員は、在籍学級の担任の先生と連携しながら指導を進めます。また、在籍学級での生徒の様子も見学し、担任に助言することもあります。

■「特別支援教室」の仕組み



■「特別支援教室」における指導・支援の体制



※「特別支援教室専門員」(各校に配置)特別支援教室の運営に関する連絡調整を行います。

教室では 困り感に応じた授業をします

特別支援教室での授業は、週1回、1日1~2時間程度を基本としていますが、指導内容や方法、時間などを保護者や在籍校と相談して決定します。一人ひとりが抱える困り感を理解しながら、個別学習やグループ学習を組み合わせています。また、指導以外の時間においても個別の相談に応じ、学習意欲の喚起や心理的安定を図ります。

個別学習



限局性学習症やADHD、自閉スペクトラム症といった特性があることで、学習に困難がある場合には、学習スキルの向上を目指して、作文、読解の指導をはじめ、集中力、記憶力、書字の改善などのトレーニングを行います。また、感覚機能や運動機能を育てていくための運動をして、学習姿勢が維持できるようにします。

生徒の特性に応じて工夫された教材を使ったり、学級での学習方法を具体的に相談したりしながら、在籍学級で力を発揮できるための方法を身につけていきます。

個別指導は教科の成績アップが目的ではなく、その子なりの学習方法を身につけることで学びの困難を解消していくことが目的ですが、それにより、結果的に成績の向上につながることも期待できます。

グループ学習



数人のグループでさまざまな活動をする中で、他者の気持ちを知る方法や、自分の思いを伝える手段を学びます。生活場面を設定し、どのように行動することが望ましいかを話し合うソーシャルスキルトレーニングやロールプレイを通して、話の聞き方、話しかけ方、相手の気持ちを考えることなどを学びます。

また、語いや表現を豊かにするためのコミュニケーションの学習にも取り組みます。

個別相談



思春期特有の悩みを抱える生徒たちに寄り添いながら、自己理解を深める手助けをします。特別支援教室でのめあてを個別に設定し、どんなことができるようになれば「めあて達成」なのかを具体的にイメージします。個別学習のテーマも、生徒と話し合いながら検討していきます。また、めあてがおおむね達成できれば退室になります。